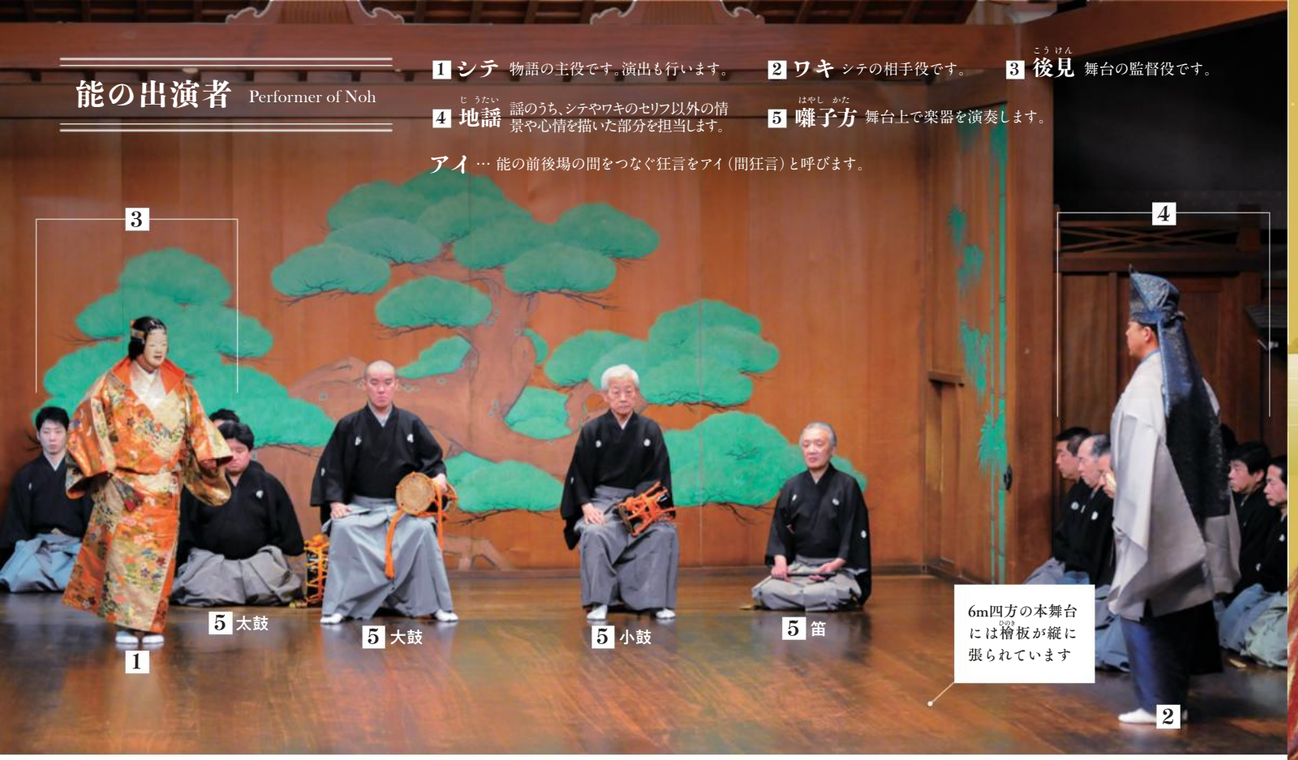
能の出演者 Performer of Noh

1 シテ 物語の主役です。演出も行います。
2 ワキ シテの相手役です。
3 後見（こうけん） 舞台の監督役です。
4 地謡（じうたい） 謡のうち、シテやワキのセリフ以外の情景や心情を描いた部分を担当します。
5 囃子方（はやしかた） 舞台上で楽器を演奏します。

アイ … 能の前後場の間をつなぐ狂言をアイ（間狂言）と呼びます。



能楽体験のご案内

「冬の観能の夕べ」をよりお楽しみいただくため、開演前に演目に関する体験を実施します。



開催日	内　容	講　師
1月23日（土）	笛・太鼓体験	江野 泉、麦谷 暁夫
1月30日（土）	狂言体験	能村 晶人、炭 光太郎
2月6日（土）	謡・仕舞体験	髙橋 憲正、渡邊 隆士
2月13日（土）	小鼓・大鼓体験	住駒 俊介、五十嵐 浩之

■時間：各回12：30～（40分程度）※12:00～受付開始
■定員：各回20名程度 ※要事前申込・先着順
■料金：無料（当日の鑑賞者に限ります）※白足袋をお持ちの方はご持参ください。
■お申し込み・お問い合わせ：県立能楽堂 Tel.076-264-2598

金沢能樂美術館 関連行事

「冬の観能の夕べ プレ講座〈全2回〉」

金沢能楽会の人気能楽師が、能の見どころを分かりやすく紹介します。

参加無料（要観覧料、申込優先）

第1回	第2回
12/26（土） 11：00～12：00	1/30（土） 11：00～12：00
講師：藪 克徳［解説演目：12/26・1/23の能］	講師：佐野 玄宜［解説演目：1/30・2/6・13の能］

■会場：金沢能楽美術館 3階研修室（各回50名）
■お申し込み・お問い合わせ：金沢能樂美術館 TEL.076-220-2790

アフタートークのご案内

今回もアフタートークを開催します。ぜひご参加ください！

1/30（土） 講師：木谷 哲也、葛野 りさ

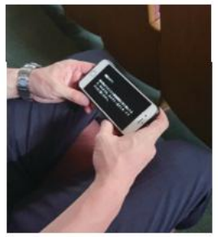
■時間：各回公演終了15分後より30分程度
■料金：無料（当日の鑑賞者に限ります）
■会場：見所
■お問い合わせ：県立能楽堂 Tel.076-264-2598
※詳しくは石川県立能楽堂のホームページをご覧ください。

◀石川県立能楽堂ホームページ

写真提供：（公社）金沢能楽会

字幕解説サービス「能サポ」

スマホを利用した字幕解説サービス「能サポ」を無料でご利用いただけます。セリフと解説（日本語・英語）が画面に自動で表示されます。なお、字幕解説は能のみとなります。



能サポ

App Store　Google Play

▲字幕解説サービス「能サポ」は事前にこちらのQRコードから「EG-G」アプリ（無料）をダウンロードしてください。



金沢駅兼六園口（東口）6番のりば　北鉄バス 出羽町バス停より徒歩3分

世界無形文化遺産　能楽

冬の観能の夕べ

Kaga Hosho Noh Theater

今触れてほしい
伝統文化が
ここにある



土曜日開催
全5回

国と県の補助により、お手ごろな料金で
本格的な伝統芸能をご鑑賞いただけます。

2026 12/26（土） ▶ 2027 2/13（土）

14時30分開演（13時30分開場／16時30分頃終了予定）
※詳しい日程は中面をご覧ください。

各公演／**1,500円**
※当日券同額 ※各回解説付き ※全席自由

チケットのお求め
石川県立能楽堂（076-264-2598）
石川県立音楽堂チケットボックス（076-232-8632）
金沢能楽美術館（076-220-2790）
香林坊大和プレイガイド（076-220-1332）

オンライン販売はこちらから！
オンラインチケット販売は各公演日の3日前までとなります。

※石川県立能楽堂以外でのチケット販売は各公演日の3日前までとなります。
※高校生以下無料。ただし、入場券が必要となります。入場券は石川県立能楽堂でお求めください。

能楽体験を実施します！（全4回）※詳しくは裏面をご覧ください。

主催／いしかわの伝統文化活性化実行委員会
会場・お問い合わせ／石川県立能楽堂 TEL&FAX 076-264-2598 〒920-0935 金沢市石引4-18-3

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
令和8年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）
金沢まちなか芸術祭 Kanazawa Arts Festival 連携事業 Collaborative Projects



日本の伝統美と幽玄の世界に浸る世界最古の舞台芸術



能楽とは What's Nohgaku?

「能楽」は、継承されている演劇としては「世界最古」といわれる日本独自の舞台芸術で、「能」と「狂言」から成ります。日本で最初にユネスコ無形文化遺産に登録された世界が認める伝統芸能です。
「能」では、笛や鼓による演奏と地謡と呼ばれるコーラス隊の謡にあわせて舞台上の人物が舞いながら物語を展開します。一方「狂言」は、庶民の日常生活を題材とした喜劇であり、会話を中心に物語が展開します。

加賀宝生 Kaga Hosho

江戸時代、能は幕府の式楽となり、各地の藩でも能が盛んになりました。加賀藩前田家は能の宝生流（5流派の1つ）を手厚く保護・育成し、庶民にも広く推奨したことから、今では金沢といえば「加賀宝生」と言われるほど、発展を遂げています。

石川県立能楽堂 Ishikawa Prefectural Noh Theater

能楽文化の保存・継承及び振興の拠点として、昭和47年（1972年）全国初の独立した公立能楽堂として開館しました。能舞台は、昭和7年（1932年）に建てられた金沢能楽堂本舞台を移築したもので、国の有形文化財に登録されています。

石川県立能楽堂
ホームページ

X

公演予定 Scheduled performance

12/26 土





〈仕舞〉是界（ぜがい） 佐野 弘宜

〈狂言〉清水（しみず） 炭 光太郎

主人から清水を汲みに行くよう命じられた太郎冠者は、面倒なので鬼に襲われたふりをして帰ります。しかし主人が、置き忘れた家宝の桶を清水へ取りに行くと言い出すので、困った太郎冠者は鬼になりすまし…。

〈能〉車僧（くるまぞう） 渡邊 隆士

冬の嵯峨野で高僧・車僧の前に山伏姿の天狗・太郎坊が現れ、禅問答を挑むが鮮やかに受け流される。次に天狗の姿で現れた太郎坊は法力比べを挑むが、僧の法力の前に退散する。

1/23 土







〈仕舞〉野宮（ののみや） 藪 克徳

〈狂言〉謀生種（ほうじょうのたね） 炭 哲男

嘘の上手な伯父に対抗しようと、甥はほら話を用意して挑むものの敵わない。話の上手くなる秘訣は、庭に埋めた「謀生の種」と言われ、甥は庭をあちらこちら掘ってみるが…。

〈能〉葵上（あおいのうえ） 髙橋 憲正

光源氏の正妻、葵上を呪う六条御息所（ろくじょうのみやすどころ）の生霊。梓弓の音で霊を呼ぶ「梓の法」に引かれ姿を現し、在りし日の栄華を語るうちに嫉妬に駆られ、葵上を打ち据えようとする。葵上の病状の急変に、呼ばれた比叡山の僧横川小聖（よかわのこひじり）が祈祷し、般若となった御息所を調伏する。

1/30 土



〈仕舞〉竹生島（ちくぶしま） 葛野 りさ

〈狂言〉痺（しびり） 中尾 史生

主人に堺へ使いにいくよう命じられた太郎冠者は、痺れが起こって歩けないと嘘をつく。仮病を見抜いた主人は、せっかく伯父から振る舞いによばれたが、病気ならば連れていけないといって冠者をだます。冠者は痺れが治ったといって立つが、主人から堺へ行くよう言われ…。

〈能〉春日龍神（かすがりゅうじん） 木谷 哲也

釈迦を深く思い慕う明恵（みょうえ）上人は、インドでの仏跡巡礼を決意し、旅立ちの前に春日明神に参詣する。そこで出遭った老宮守は、釈迦も入滅した今、この春日山こそ日本の霊鷲山として拝むべきであると言って引き留め、春日明神の神徳を語る。明恵上人が、これも明神の御神託であろうと巡礼を思い留まると、猿沢（さるさわ）の池の龍神が現れ、釈迦の説法や誕生から入滅の様子などを見せる。

2/6 土





〈仕舞〉船弁慶クセ（ふなべんけい） 佐野 玄宜

〈狂言〉棒縛（ぼうしばり） 能村 晶人

主人が留守にするたびに、太郎冠者と次郎冠者が酒を盗み飲みするので、ある日主人は太郎冠者の腕を棒にくくりつけ、次郎冠者を後手に縛り上げてから外出します。残された二人は、なんとかこの不自由な格好で酒が飲めないかと知恵を働かせ…。

〈能〉吉野静（よしのしずか） 福岡 聡子

吉野山衆徒の追っ手から逃げる源義経。家来の佐藤忠信は一計を案じ、様々な噂や嘘を広め、衆徒を欺く。そこに静御前が現れ面白く舞を舞い、衆徒を引き止め、義経は無事落のびて行く。

2/13 土





〈仕舞〉弓八幡（ゆみやわた） 松田 若子

〈狂言〉柿山伏（かきやまぶし） 清水 宗治

修行の帰り道、喉が渇いた山伏は道中で美味しそうな柿を見つけます。柿の木へ登り柿を食べて喉を潤していると、そこへ柿畑の持ち主が見回りにあらわれ山伏を見つけます。木の陰に隠れた山伏を見て、動物の真似をさせてからかっていると…。

〈能〉金札（きんさつ） 島村 明宏

桓武天皇の勅使が大宮造営の命に従い伏見に赴くところへ、老翁が現れる。王法を尊び、造営にちなんで木尽しの歌を謡い、その手元には金の札が降る。老翁は伏見の謂れを語り、自らを伊勢大神宮の使者、天津太玉の神であると明かして消える。やがて勅使の前に、天津太玉の神が本体を現し、悪魔を払い、神威を示し、治まる御代を祝福して社殿に消える。